

WiMAX高度化と

モバイル放送跡地議論、周波数オークション

その行方

東北3県の移行は終了していないが、「7.24」を無事乗り切って電波オークションを含む跡地利用の論議が激しさを増している。電波オークションについては本誌の意見ははっきりしている。欧米がやっているからと財源確保策の妙案として浮上り、真剣に検討されているようだが、国益に反することで、納得しかねる。しかしながら本稿はオークション反対論について纏めたものではない。跡地利用をめぐる議論を冷静に見つめたものである。本稿の焦点は、「WiMAX高度化」「モバイル放送跡地」「周波数オークション」に当てられているが、これまで地域WiMAX事業の重要性をキャンペーンしてきた経緯からも「地域免許制度の維持」「さらに周波数を地域に割り当てよ」という「牙」を含む論点整理でもある。(天野昭・本誌発行人)

周波数オークションの メインターゲット

総務省で2011年の夏から始まったWiMAXの高度化検討(≒WiMAX2)もいよいよ大詰めとなっている。当事者であるUQにとっては目指してきたマイルストーンであり、この先のWiMAX2商用化に何としてもこぎつけたいところであろう。

一方の地域WiMAX関係者にとっては、UQとは少々異なる状況がある。モバイル放送跡地等をメイン・ターゲット

に、2010年から、共に新たな周波数割当てを要望しているものの、UQが700～900MHz帯へも興味を示すのに対し、地域WiMAX陣営は第2候補として3.4G～3.6GHz帯を挙げている。この3.5GHz帯(IMTバンド=4G予定地)が、世をにぎわす周波数オークションのメイン・ターゲットなのである。

また、前回2010年度のBroadband Wireless Access(BWA)高度化検討では、WiMAX(IEEE802.16e)のUL(上り)を中心とした小幅な改善が行なわれたが、ウィルコムの子会社であるワイヤレス・シ

ティ・プランニング(WCP)が、XGPの高度化として事実上「TD-LTE」方式に乗り換える宣言をしたことでも話題となった……。

「モバイル放送の跡地議論」 の余波

さて、今年度のBWA高度化検討の主役はWiMAXの高度化、すなわちIEEE802.16m(≒WiMAX2)の追加であるが、あるコトが理由で面白い動きとなっている。それは「モバイル放送の跡地議論」である。

「地域免許制度」

を左右する

周波数オークション